

シンポジウム | 特別講演

学術用語シンポジウム

高齢者の定義 75歳は妥当か？ -老年歯科医学からの検討-

座長: 眞木 吉信(東京歯科大学衛生学講座)

Fri. Jun 22, 2018 3:40 PM - 5:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

- 1978年 東京歯科大学卒業
- 1987年 スウェーデン, ルンド大学歯学部口腔微生物学講座留学 (スウェーデン政府給費留学生, 1年5ヵ月)
- 1990年 東京歯科大学口腔衛生学講座助教授
- 2002年 東京歯科大学衛生学講座教授
(財)ライオン歯科衛生研究所附属東京診療所院長
- 2010年 東京歯科大学社会歯科学講座教授
- 2016年 東京歯科大学衛生学講座教授

【抄録】

日本老年学会は2017年1月5日に、現在は65歳以上と定義されている「高齢者」を75歳以上に見直すよう求める提言を発表した。医療の進展や生活環境の改善により、10年前に比べて身体のはたらきや知的能力が5~10歳は若返っていると判断したため、確かに歯科医学の観点からも、高齢者の歯数が増加するなど、歯科医療の進歩の形跡が認められる。このシンポジウムでは、高齢者に関する定義検討ワーキンググループのメンバーでありかつ歯科医師でもある那須郁夫日本大学客員教授より、歯科独自の観点から考えた「高齢者の適正年齢」を考察していただくとともに、他の職種からみたときに、本当にこの定義は妥当なのかを、同様にメンバーであった社会科学分野の古谷野 亘聖学院大学教授から、さらには、大学に赴任される前は厚生労働省にいらした小坂 健東北大学教授をシンポジストにお迎えして、それぞれの立場から考える「高齢者の定義」の議論を深めてみたい。

[S3-2]高齢者を年齢で定義するのは適切か—社会学の立場から

○古谷野 亘¹ (1. 聖学院大学)

【略歴】

- 1977年 立教大学社会学部卒業
- 1983年 立教大学大学院社会学研究科博士課程中退
- 1987年 桃山学院大学社会学部助教授
- 1991年 東京都老人総合研究所社会学研究室長
- 1996年 北海道医療大学看護福祉学部教授
- 1999年 聖学院大学人文学部教授
- 2004年 聖学院大学人間福祉学部教授
- 2016年 聖学院大学人間福祉学部長兼大学院人間福祉学研究科長
- 2018年 聖学院大学心理福祉学部長兼人間福祉学部長兼大学院人間福祉学研究科長

日本老年学会理事

日本老年社会学会理事

社会生活の加齢変化は、理論的には社会的地位と役割の変化である。地位と役割は大まかには年齢階梯に沿って配分されているので、特定の年齢の人が特定の地位・役割の変化を経験することが多い。しかし、地位・役割の変化はそもそも年齢に依拠する事柄ではないから、暦年齢で「老いた人」の定義をするには本来無理がある。にもかかわらず、現代社会では年齢で「老いた人」の定義をするのが当然とされ、一定の年齢に到達したことをもって地位・役割の変化が引き起こされることすらある。「老いた人」を「高齢者」と言い換えるようになってからは、特にその傾向が顕著である。

制度を設計する際には年齢を指標にせざるをえないかもしれないが、年齢は本来、社会生活の指標としてはき

わめて不十分なものでしかない。超高齢社会にあって目ざすべきなのは、暦年齢にかかわらず、希望と能力に応じて参加と社会的活動を可能にするエイジフリーな社会の実現である。